

1. 科目名（単位数）	ソーシャルワークの基盤と専門職（2 単位）	3. 科目番号	SSMP2155 SNMP2355 SCMP2155 SBMP2155 SPMP2155 PSMP2455
2. 授業担当教員	庄司 妃佐		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ（社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法）について理解した上で、ソーシャルワークの概念、基盤となる考え方（原理・理念）を学び、現代に至るまでのソーシャルワークの歴史的な形成過程について学ぶ。 さらに、社会福祉士、精神保健福祉士、ソーシャルワーカーそれぞれの倫理綱領を読み解き、ソーシャルワークの価値規範と倫理について考究を行う。		
8. 学習目標	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。		
9. アサイメント （宿題）及びレポート課題	レポート課題1：ソーシャルワーカーの倫理綱領・行動規範学び、ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することがなぜ必要なのかを考察せよ。 ※レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。 ※適当な時期に授業の内容に関する確認テストを行う。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門]』中央法規出版, 2021 年 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説（初等教育編）』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説（中等教育編）』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 1. 受講態度・参加姿勢 40%（全授業の 3/4 以上の出席が必要）遅刻（10 分程度迄）は 3 回で 1 回休みとなる。 2. 筆記試験とレポート試験を行う。60% ○評定の方法 1. 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 2. ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の職域と求められる役割について理解する。 3. ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 4. ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。		
12. 受講生への メッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は、そのために下記の事を守ることが期待されている。 1. 授業中はつねに集中力を保って受講すること。積極的な態度で授業に参加することが期待されている。 2. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 4. レポートの提出日を厳守すること		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方、社会福祉とソーシャルワークの理解	事前学習	シラバスを確認し、初回授業に持参する
		事後学習	社会福祉におけるソーシャルワーカーの職域についてまとめる
第 2 回	ソーシャルワーカー職について ソーシャルワーク専門職（社会福祉士・精神保健福祉士について）	事前学習	社会福祉士・介護福祉士法、精神保健福祉士法について調べる
		事後学習	ソーシャルワークの共通点と専門性の違いをまとめる
第 3 回	ソーシャルワーカーが働く場所 ソーシャルワーカーの分野と業務について学ぶ（福祉、教育、医療、保健、司法、	事前学習	ソーシャルワーカーと出会う場所を考える
		事後学習	働く専門分野についてまとめる
第 4 回	ソーシャルワーカーに求められるコンピテンシー 専門職としての行動の特性を学ぶ（倫理、人権尊重、個人・家族・集団・組織・コミュニティとのかかわり）	事前学習	テキスト p36－50 を熟読し、ソーシャルワーカーの特性について考える
		事後学習	ソーシャルワーカーのコンピテンシーをまとめる
第 5 回	ソーシャルワークの概念 1 ソーシャルワークの定義について（ソーシャルワークの定義の変遷、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義）	事前学習	テキスト p52－66 まで読み、ソーシャルワークの業務内容について考え、重要な部分をマークする
		事後学習	ソーシャルワークの定義について説明できる

第 6 回	ソーシャルワークの概念 2 ソーシャルワークの構成要素について（クライアント、ニーズ、ソーシャルワーカー、社会資源）	事前学習	テキスト p68－82 を読み、ソーシャルワーク業務の重要と考える部分をマークする
		事後学習	ソーシャルワークの構成要素について説明できる
第 7 回	ソーシャルワークの基盤となる考え方 1 ソーシャルワークの原理について（社会正義、人権尊重、手段的責任、多様性の尊重）	事前学習	暮らしの中にある人権について考える
		事後学習	ソーシャルワークの原理を説明することができる
第 8 回	ソーシャルワークの基盤となる考え方 2 ソーシャルワークの理念（当事者主権、尊厳の維持、権利擁護、自立支援、エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン等）	事前学習	自立とは何かを考える
		事後学習	ソーシャルワークの理念の中の専門用語を説明することができる
第 9 回	ソーシャルワークの倫理 1 専門職倫理の概念について学ぶ（専門職の価値と倫理、専門職倫理の必要性）	事前学習	生活における倫理とは何かについて考える。テキスト p172－187 を熟読し、意味が不明なところを調べる。
		事後学習	専門職倫理の必要性について説明することができる
第 10 回	ソーシャルワークの倫理 2 ソーシャルワーカーの倫理綱領について（日本、全米、国際ソーシャルワーカー連盟など）	事前学習	テキスト p175－191 を熟読し、不明な点を調べる
		事後学習	倫理綱領の中で、特に重要と考える内容を説明できる。
第 11 回	ソーシャルワークの倫理 3 倫理的ジレンマについて事例を通して学ぶ	事前学習	ジレンマについての経験を振り返る
		事後学習	ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマについての解決方法の根拠を示すことができる。
第 12 回	ソーシャルワーカーの形成過程 1 ソーシャルワークの源流の基礎確立期	事前学習	産業革命の時代の特徴について調べる
		事後学習	ソーシャルワークの源流である中世の時代の福祉の特徴についてまとめる
第 13 回	ソーシャルワーカーの形成過程 2 ソーシャルワークの発展期（診断主義と機能主義、グループワーク、コミュニティオーガニゼーション）	事前学習	世界恐慌（1929 年）について調べる
		事後学習	診断主義と機能主義の違いについて説明することができる
第 14 回	ソーシャルワーカーの形成過程 3 ソーシャルワークの展開期と統合化と日本における形成過程	事前学習	米騒動について調べる
		事後学習	日本のソーシャルワークの形成過程についてまとめる
第 15 回	まとめと振り返り（含む：課題） ソーシャルワークの基盤と専門職のまとめとフィードバック	事前学習	ソーシャルワークの意義についてまとめる
		事後学習	授業中に出された課題について調べてまとめる